仙台二中　防災だより

第4号

令和５年度　第４号
令和５年７月20日発行

発行者　防災主任

４年ぶりに地域合同防災訓練を開催しました

６月２４日（土）に地域住民や関係機関の方々が参加し，東北福祉大学健康科学部の先生や学生ボランティアの御協力をいただき，４年ぶりに地域との合同防災訓練を開催しました。

全校生徒を含めた参加者が開会式に臨んだ後，１・２年生は各教室で防災学習に取り組みました（詳細は次号で紹介いたします）。３年生は地域住民の方々と共に，体育館で救命救急講習（応急手当訓練）と避難所設営訓練を行いました。

東北福祉大学健康科学部医療経営管理学科の髙野拓哉先生と学生ボランティアの皆さんから御指導をいただきながら，人形を使った胸骨圧迫やＡＥＤを使った救命救急講習と三角巾を使った応急手当訓練を行いました。その活動の様子が東北福祉大学健康科学部医療経営管理学科のホームページで紹介されています。

避難所設営訓練として，仮設トイレの組み立てもしくはＬＥＤ投光器・ＬＥＤ発電機を使用する体験も行いました。説明書を見ながら級友と協力して仮設トイレやＬＥＤ投光器を組み立てたり，発電機を実際に動かすなど，真剣に取り組んでいました。

また，昨年度本校のプール脇に設置された災害時給水栓の使用説明と訓練を仙台市水道局職員に御協力いただき，地域住民や学校職員を対象に実施しました。

（裏面に続きます）

防災ミニ講話「東日本大震災時の二中と地域」

11 時からは体育館に全校生徒が集まり，防災ミニ講話を行いました。講師は 12 年前の東日本大震災当時にＰＴＡ会長でもあった東北福祉大学健康科学部学部長教授の舩渡忠男先生で，「東日本大震災時の二中と地域」というテーマでお話しをいただきました。震災当時に避難所となった様子や中学生の活躍のほか，災害時に中学生に期待することや災害に備えて約２週間分の水や食料を備蓄してほしいという内容でした。

ミニ講話を受けた生徒の感想をいくつか紹介します。

・いつも使っている身近な体育館で起こった内容だったので，真剣に聞くことができた。
・東日本大震災後に二中の体育館が避難所になり，1,000 人以上集まったことに驚いた。
・震災当時の悲惨な様子や中学生のすばらしい活躍を初めて知った。
・生まれたばかりの私たちを抱えて避難しなければならなかった両親の大変さや究極の選択をしなければいけないことを考えるとゾッとする。
・中学生でもできることがたくさんあることを知った。
・避難所生活では協力や助け合うことが必要。
・二中が避難所になった際は，二中のことを一番知っている私たちが誘導したり，率先して動かなければならないことを学んだ。
・地域の方々と交流を持ったり，挨拶したりといった日頃からのコミュニケーションが重要。

・中学生である自分は守られる側だという意識ではなく，守る側だという意識を持つことが大切だと感じた。
・震災を風化させないことや次の世代に継承しなければいけないと思った。

感想やアンケートの結果を見ると，災害時のみならず普段からできるだけ地域の役に立ちたいと思う生徒が多かったこともわかりました。

地域や学生ボランティアのアンケートから

訓練を終えた後に地域の方々や学生ボランティアの方からは，「実際に訓練に直接参加したのは初めてで，見ているのと違って難しいところもありましたが参加して本当に良かった」，「簡易トイレ設置も給水栓も力仕事だと分かり若い力の必要性を実感した」，「話を聞く生徒の態度や取り組む姿勢が立派で，誠実で頼りになる」との声がありました。

次号では，1･2年生の防災学習の様子をご紹介します。